

令和元年度 稲築東中学校 学校評価 報告書

| |
|-----------------------------------|
| 【学校教育目標】 |
| 確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく生きる生徒の育成 |

| |
|--|
| 【本年度の重点目標】 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「社会性と情動の学習」を特色ある教育活動として位置づけ、教科等と関連を図り、生徒間及び生徒と教師間の親密で良好な関係を築くとともに、集団づくりを推進する。 ・そのことを基盤にして、授業改善、家庭学習(宿題・自学)や朝活の充実にも努め、学力を向上させる。また、小中の連携を強め、新規の不登校生徒をつくらないようにするとともに、復帰に向けた支援に努力する。 |

4 大変よい 3 よい 2 努力を要す 1 すぐに改善

| 領域 | 項目 | 自己評価 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価を踏まえた改善策 | |
|-------|------|--|---------|--|---|
| 組織・運営 | 学校経営 | <p style="background-color: yellow;">学校教育目標の具現化に向けて、教職員一人ひとりが経営方針を理解し、組織的・協働的・意欲的に学校経営に参画する。</p> <p>〈結果〉 自己評価－0.3P。学校経営に関する各評価項目は前年度に比べほぼ変わらない。学校文化として組織的・協働的・意欲的に「学校づくり」に参画する意識が職員間に定着してきた。</p> | 2.9 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画策定段階から若い職員等兵権を求め、実行時の責任感をより強くすることを考えてみてはどうか。 ・学校経営に対する参画意識が定着してきていることは、素晴らしいことです。改善策の中に挙げられている「教職員間の意識の格差」の解消に向けて、OJTによる教師力アップの取組に期待しています。 ・前年度の改善策に対する取組内容の記述をされるとよいと思います。 | <p>学校経営への参画意識に職員間の格差が見られる。具体的な方策の計画・実施について、より具体的な助言や指示に加え、校務分掌部長を核とした組織的な方策の計画、実施、また新たなミドルリーダー(中核教員)の人材育成と、OJTによる教師力アップの取組が更に必要である。</p> |
| | 校務分掌 | <p style="background-color: yellow;">校務分掌組織の活性化を図るために、P-D-C-Aサイクルに基づいたマネジメントを推進し、定期的な評価と改善を行う。</p> <p>〈結果〉 自己評価－0.3P。重点目標の達成に向け、各種委員会の組織マネジメント機能を重視した取組を行った。また、学期末の校務分掌部会や係ごとの会議で、反省・評価・改善策の提示が定着し、マネジメントサイクルが定着してきた。</p> | 3.1 | <ul style="list-style-type: none"> ・無理のない委員会日程を計画段階から考慮しておかなければ結果がともなわないことから、日程を十分確認して、余裕のある回数を設定しておく。 ・校務分掌部会を立ち上げ、共通理解を図る場を設定したことは、よいことだと思います。今後、年間計画に評価をきちんと位置付け、組織マネジメント機能の充実を図られることを期待しています。 | <p>昨年度立ち上げた各校務分掌の内容・方法について共通理解を図るための校務分掌部長会を今年度は実施できていない。今年度は、各種委員会の機能的な活動を重視した取組を実施した。次年度はより組織マネジメント機能を充実させるために、年間計画に各種委員会及び校務分掌部長会等のカリマネ組織の実働、活動計画及び評価を位置づける。</p> |
| | 情報発信 | <p style="background-color: yellow;">学校の教育方針や生徒及び学校全体の活動を保護者や地域に知らせるとともに、協力体制の構築をはかる。</p> <p>〈結果〉 自己評価±0P。学級・学年通信・学校通信を定期的に発行し、生徒や学校の様子を保護者に知らせることができた。台風による学校休校などの情報を「すぐメール」で知らせるなど、効果的な活用ができた。また、週予定を定期的に配信し、学校行事を確実に連絡した。現在の保護者登録者数は13</p> | 3.5 | <p>参加しやすいPTA活動にしていく必要がある。自治会と結びつきをより強くし、地域行事に参加するなど考えて欲しい。</p> <p>・ここ数年、すぐメールやホームページ等の情報発信が充実してきています。生徒の様子が分かることで、保護者や地域への啓発や連携に大きく資するものになると思います。開かれた学校づくりにさらに努めて下さい。</p> | <p>学校通信やホームページの内容充実に努め、保護者や地域の方々に学校の様子をさらに分かりやすく知らせ、開かれた学校づくりに努める。また、PTAのページを開設し、よりPTAとの連携を広めるようにする。機会があるごとに「すぐメール」の登録用紙を配布し、さらに登録者を増やしていく。</p> |
| | 学校評価 | <p style="background-color: yellow;">学校評価を定期的実施することにより、改善と充実を図る。</p> <p>〈結果〉 自己評価±0P。生徒や保護者アンケートを実施し、自己評価に反映させている。年々保護者アンケートの回収率が上がってきた。また、保護者からの学校への評価も上昇している。</p> | 3.2 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、アンケートや三者懇談等、コミュニケーションツールを活用し、意思疎通を図って欲しい。 ・学校の教育活動を充実させていくためには、学校関係者評価の果たす役割は大きいと思います。保護者からのアンケート回収率が上がってきたことは、学校に対する評価の表れだと思います。 | <p>学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりのために、各種アンケートを分析し、課題の明確化と共有化を図る。また、学校行事や学習参観を積極的に参加を呼びかけ、多くの地域・保護者から生徒の活動の姿を見て評価をしていただく。学校関係者評価委員の皆さまのご意見を謙虚に受けとめ、積極的に学校改善に生かしていく。</p> |
| | 総合所見 | <p>教職員一人一人の経営参画の意識に格差が生じている。運営委員会を中心に職員間のOJTに関する意識の高揚を図る必要がある。特に学校の中核となるミドルリーダーや若手教員の育成を意図した組織づくりを通して、学校教育目標の具現化に向けた協働体制を整えていく。今後、さらに、取組の一貫性や関連化がさらに必要である。自分の係の取組が学校の重点課題の解決につながるという意識を持ち、プラスワンの工夫を加えるようにする。また、校務分掌や学校評価において全職員の共通理解のもと、P-D-C-Aサイクルを生かし、教育目標の具現化をさらに進める。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成を図る組織づくりを推進して欲しい。 ・教職員の意識は向上していると認識している。 ・稲築東中学校が落ち着いてきているという話をよく聞きます。これを継続していくために、今後も、全職員の共通理解のもと、学校教育目標の具現化に向けて取組を進めていってほしいと思います。また、各取組の核となるミドルリーダーを、学校をあげて育ててください。 | <ul style="list-style-type: none"> ・さらなるミドルリーダーの育成とOJTによる若手教員の資質向上を図る。 ・全職員の共通理解のもと、CAP-Dにより校務分掌組織の機能化を図り、教育目標の具現化をさらに進める。 |

| 領域 | 項目 | 自己評価 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価を踏まえた改善策 | |
|-----------|---------|--|---------|---|--|
| 教育課程・学習指導 | 授業時数 | <p>教育課程の完全実施のため、授業時数を確保する。</p> <p>〈結果〉 自己評価±0P。事前に年休・出張を把握し、毎週の時間割編成で振替授業が確実に行われ、授業時間の確保ができています。昨年同様、2学期の始業式が5日間はやはり授業時数の確保がしやすくなった。</p> | 3.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・時間確保に苦心されていると思うが、子どもたちの学力向上に今後も取り組んで欲しい。 ・これから新学習指導要領へ移行していきます。積極的に授業時数を確保することで、生徒の学力も向上していくと思います。来年度も、自然災害やインフルエンザ等のための臨時休校や学年閉鎖等を見据え、授業時数の確保に努めていただきたいと思います。 | <p>学力向上のための適切な授業時数の確保、配分をおこない、教育課程の量的・質的管理の徹底をはかる。また、特別活動(学級活動)・道徳の時間・総合的な学習の時間のカリキュラムを見直し、「社会性と情動の学習」(SEL-8S)を本校の特色ある教育活動として位置付け、カリキュラムマネジメントによる実施、評価を計画的に実施する。</p> |
| | 学力向上 | <p>生徒の実態に基づいた学習指導体制や授業改善に努め、学力向上プランに基づいた指導方法の工夫・改善を行う。</p> <p>〈結果〉 自己評価-0.2P。意欲的・主体的に学習する「わかる授業」の工夫・改善については、肯定的回答は生徒、保護者、教師のアンケートともに高いものの、学力の定着、向上の結果には結びついていない。</p> | 3.1 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育のさらなる実践力の向上のために、学校通信や保護者面談時などでより積極的にアピールして欲しい。また、PTA組織にも働きかけをして、より周知する工夫をして欲しい。 ・「わかる授業」の工夫改善の項目で、生徒の肯定的な回答が92%となったことは、素晴らしいことだと思います。 ・嘉麻市では、市をあげて家庭学習の定着に取り組んでいますので、小中連携し、生徒や家庭に働きかけ、家庭学習の充実を通して、学力の一層の向上に努めていきましょう。 ・学校でフクトの試験を実施していただき助かります。 | <p>年間3回実施の生徒による授業アンケートを活用した授業改善の校内研修を計画的に実施する。全国学力・学習状況調査やフクトテストの結果分析を学力向上委員会を中心に全職員で共有し、学力向上プランをもとにした検証改善サイクルを実働させる。また、家庭学習の定着を図るため自学ノートを鍛ほめ福岡メソッドの取組として展開していく。</p> |
| | 少人数指導 | <p>少人数指導や個に応じた指導を行い、基礎・基本の学習内容の定着を図る。</p> <p>〈結果〉 自己評価±0P。英語科及び数学科は、TT授業、習熟に応じた分割授業、個別指導などをおこなった。特に、3年生では、少人数習熟度別指導により学習意欲が高まり、きめ細かな指導ができた。</p> | 3.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して欲しい。 | <p>少人数指導や個に応じた指導法の工夫改善や有効的な実践を検証し、学力向上、基礎基本の定着の方策を実行する。また、具体的な到達目標を明確にし、繰り返し指導を徹底することで、確実な基礎・基本の定着を図るとともに、思考力を問う問題に適應する力を付ける。</p> |
| | 情報機器の活用 | <p>情報機器(パソコン・電子黒板等)を活用した授業実践を工夫する。</p> <p>〈結果〉 自己評価±0P。教師のアンケート結果では、教科や学級・学年活動で情報機器を活用した授業実践の項目が、昨年度の80%から65%と減少した。</p> | 2.8 | <ul style="list-style-type: none"> ・活用方法などについて、より研修が必要ではないか。 ・情報機器を活用しての授業実践が、減少していることは、残念です。今後は、研修等を通して、教員の情報機器活用の技能と意識の向上を目指してください。 ・もっと情報機器を活用する授業をして欲しいと思います。 | <p>本年度、ペッパー君が導入された。しかし、その活用ができていない。今後は、実際の情報機器活用スキルを向上する研修を行い、効果的な活用方法や授業実践を工夫する。GTを招聘した研修を実施、教科、領域で情報機器の更なる活用を目指す。</p> |
| | 総合所見 | <p>授業改善に取り組みと同時に、生徒のつまづきを見つけるための確認テストを毎時間の授業の中で設定する。さらにその定着を図るための定期考査とは別に「単元テストの実施」と各教科で調整を図り、計画的に「家庭学習の課題」を出すようにする。また、定期考査の問題の質を上げるための研修をするなど、より生徒の学力向上に繋がる取組を行う必要がある。さらに、本校の鍛ほめ福岡メソッドの取組である自学ノートを活用した生徒の意欲を高め、達成感を持たせるように学力向上の取組を進める。それにより、1年90分 2年100分 3年120分以上の家庭学習時間の確保80%以上を目指す。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・施策の計画はできているが、実際に実行が可能か。時間的余裕等を再度確認し、実行可能な計画にして欲しい。 ・個の課題解決に向けた、「単元テスト」や「家庭学習」の実施を行い、更なる学力向上を目指して下さい。 また、小中連携推進協議会で、学力向上の取組を小学校と中学校の教職員で交流し、段差の解消や共通に取り組んでいく内容等を決め、校区9年間で学力向上に取り組んでいければと思います。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会の年間計画を着実に実施する。そのために、学力向上プランの検証改善サイクルのロードマップをもとにし、DOの重点化を図る。 ・定期考査等における思考力を問う問題の質の向上 ・鍛ほめ福岡メソッドの手法を取り入れた自学ノートの取組の推進を図る。 |

| 領域 | 項目 | 自己評価 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価を踏まえた改善策 | |
|-------------|-------|--|---------|--|---|
| 積極的 生徒指導 | 規範意識 | <p>規範意識の醸成に向けて、規律や秩序を大切に、よりよい人間関係づくりをめざした積極的生徒指導を行う。</p> <p>〈結果〉 自己評価-0.4P。アンケートでは、99%の生徒が学校の規則を守っていると答えている。保護者も93%が肯定的である。また、生徒指導についての共通理解や積極的生徒指導の推進について教師の100%が肯定的である。</p> | 3.0 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の規則をしつかり守る学校と感じている。今度は、家庭でのルールづくり等、指導をして欲しい。 ・生徒や保護者の肯定的意見が高いところが良いと思います。また、教員自身も指導に手ごたえを感じられているようです。 ・今後、携帯電話やスマートフォンに起因するトラブルも増えてくると思いますので、家庭と連携しながらトラブルの未然防止に努めてください。 | <p>本年度は入学説明会において、SNSに関する注意喚起を行政とともに行った。今後も学校規則に関する家庭への周知を図るとともに、学校・保護者間での相互理解を図ったうえで、積極的な生徒指導に取り組む。特に、携帯電話やスマートフォンに係る家庭のルールづくりの課題に取り組む必要がある。また、生活ノートで自律的な生活習慣の意識付け、習慣化を行っていく。</p> |
| | いじめ対策 | <p>いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に努める。</p> <p>〈結果〉 自己評価-0.1。本年度のいじめ認知件数は4件(冷やか・からかい4件、金品をたかられる0件、いなかことをされる0件等)。生徒本人からの訴えや保護者からの相談による認知で主である。早期に発見し、対応できたため、重大事案にはならなかった。</p> | 3.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後もこのような対応をお願いしたい。 ・いじめの認知件は4件ですが、早期発見・早期対応で大事に至らなかったことは良かったです。アンケートだけではなく、教員と生徒との会話の中からいじめ等が発見できるよう日常から信頼関係を築いてください。また、今後もアンテナを高くし、早期発見・早期対応に取り組んで下さい。 | <p>本年度も生活アンケート(毎月)やいじめに特化したしたアンケート(学期に1回)を実施するとともに、日常的にいじめや問題行動防止に向けた取り組みを行っている。また、積極的にいじめを認知し、継続的に対象生徒を観察していくようにしている。今後も、アンテナを高くし、いじめは誰にでも、どこにでも起こりうるという認識に立ち、早期発見・早期対応に取り組んでいく。</p> |
| | 関係作り | <p>教育活動全般を通して、生徒間や生徒・教師間の人間関係づくりを図る。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.1P。社会的能力(コミュニケーションスキル等)を身につけさせるSEL-8Sの取組や学校行事(体育会、合唱コンクールなど)を通して、生徒同士の関わりや理解を深めることに努めている。</p> | 3.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も生徒同士のコミュニケーションの充実を図って欲しい。 ・行事や活動を通し、学級や学年の団結力が高まる取組は、今後も続けて下さい。教師と生徒の人間関係作りはもちろんです。生徒通しの人間関係作りも積極的に行って下さい。また、気になる子どもたちへの定期的な教育相談の実施も行って下さい。 ・様々な学校行事によって、よい人間関係ができています。 | <p>いじめや差別に繋がる日頃の言葉遣いに注意が必要である。生徒同士の些細なトラブルを自分たちで解決できる力や日頃からの関係づくりを意図的に行う必要がある。担任は生活ノートによる生徒とのやり取りをきめ細かに行うなど、生徒の様子に気を配り、信頼関係づくりを行っている。今後は生徒同士の信頼関係づくりを積極的に行っていく。</p> |
| | 生活習慣 | <p>基本的な生活習慣の確立と生活態度の向上に努める。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.2P。不登校傾向の生徒については、8人→4人→5人→6人→8人(本年度)となり2名増加した。不登校となった生徒で、ケース会議や関係機関との連携により復帰した生徒もいる。遅刻や欠席及び不登校生徒の状況等の確認も担任・副担任や不登校対策委員会・生徒指導委員会が協力して行い、家庭と連携しての取り組みに努め、未然防止策を講じるようにしている。年度途中には、学級復帰のための学習指導教員を指定して設置した。</p> | 3.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数の割に不登校生徒の数が多家庭環境に問題がある場合は、行政等関係機関と連携を図り、改善して欲しい。 ・不登校生徒が、関係機関との連携で復帰できたことは嬉しいです。不登校や生活習慣の確立は、小中での連携を更に図りながら、校区としての取組を充実させていく必要を感じています。 | <p>不登校及び不登校傾向の生徒には、プロジェクトチームでの対応を継続し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を深め、生徒だけでなく家庭への指導・助言等を行っていく。今後も個に応じたケース会議を開くなど、関係機関との連携を更に深めながら、厳しい家庭環境にある生徒の生活習慣の確立や保護者の協力に向け、家庭との連携をさらに密にする。さらに、学級内の絆づくり、居場所づくりを意図的に設定していく。</p> |
| | 教育相談 | <p>心身の健全な育成をはかるための定期的教育相談を行い、内容の充実を図る。</p> <p>〈結果〉 自己評価+0.6P。「定期的な教育相談の実施」については教師の肯定的な回答が大きく上昇した。担任による随時の教育相談を行いながら、生徒理解を深め、内容の充実にも努めてきた。定期的な教育相談以外にも、時を選ばず話す機会を持つなど、積極的に生徒理解に努める様子がある。</p> | 3.5 | <ul style="list-style-type: none"> ・「定期的な教育相談の実施」は、昨年度より上昇しているものの十分ではないようです。思春期の多感な時期でもあり、不安や心配を除いてあげられる教育相談の定期的開催をお願いします。 ・先生たちに相談を聞いてもらう取組はよいと思います。 | <p>年間を見通した定期的な教育相談の時期(週間)や内容・持ち方などを検討するとともに、日常的な生徒への声かけや気配りに努める。来年度もSCによる校内研修を年間3回実施し、生徒理解・生徒指導に関する研修を深めていく。</p> |
| | 総合所見 | <p>これまでのきめ細やかな日常的な取組、行事等を活かした積極的な生徒指導、SEL-8Sや道徳の授業の相乗効果で、この数年、生徒は落ち着いた学校生活を送っており、基本的な生活習慣や規範意識が定着してきた。生徒・保護者の学校(教師)に対する信頼関係も年々構築されてきている。この学校の落ち着いたと保護者や地域からの信頼をさらに継続し、充実した教育活動の展開につなぐためにも、積極的な生徒指導に取り組んでいく必要がある。そのために、生徒自身が自分の生活を計画、実行、反省し、それを明日に活かすと行った自律的な生活習慣を身に付けさせたい。また、様々な背景を有する生徒がおり、より深い生徒理解や生徒指導に関する教師の研修も必要となっている。課題を抱えている生徒の家庭へ指導・助言を組織的に</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・学校が落ち着いていることは訪問時に感じる。今後も維持して欲しい。地域、行政、学校、家庭が連携することが重要であるため、より開かれた学校を実現して欲しい。 ・行事等の体験活動を生かした積極的な生徒指導、SEL-8Sや道徳の授業、そして、きめ細やかな日常的な指導等、本年度の取組の重点が明確であり、その成果も表れている点は、高く評価できます。今後も積極的生徒指導を充実させ、安心して学べる学校づくりの推進をお願いします。 | <p>・計画的に「社会性と情動の学習(SEL-8S)」を特色ある教育活動に位置づけ、積極的生徒指導のさらなる推進を図り、不登校生徒を減少させ、学力保証を確実なものとする。また、新規の不登校をつらないよう、積極的な生徒指導の視点を取り入れた授業づくり、教育活動をおこなう。</p> |

| 領域 | 項目 | 自己評価 | 学校関係者評価 | 学校関係者評価を踏まえた改善策 | |
|-----------|------|---|---------|---|--|
| 教職員の資質の向上 | 主題研修 | <p>学力向上を目指し、組織的・計画的に主題研究を推進する。</p> <p>〈結果〉 自己評価±0P。昨年度から取り組んできた道徳教育(授業研修)を今年度も引き継ぎ、さらに道徳教育の充実、とりわけ道徳の授業改善に取り組んだ。一人1回の公開授業及び研究協議会をすることで、生徒の豊かな心の育成につなげ、生徒の道徳性に成果が表れ</p> | 3.4 | <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい取組をしている。ところが豊かになり、他人を思いやる人を育てるいい方法だと思う。 ・道徳教育の充実を図るため、道徳の授業改善に取り組み、積極的な授業公開を行ったことは、教職員の授業力向上に繋がったと思います。次年度からの特別の教科道徳の実施に向け、研修に対する意識も高まっているようです。今後は、SEL-8Sを道徳教育と関連づけ、更なる取り組みの充実を図ってください。 | 「生徒の自尊感情を高める道徳学習の在り方」を研究テーマに掲げて取り組んだ道徳の授業改善は、教師の授業力の向上に繋がると共に生徒の豊かな心の育成となり、落ち着いた学校生活や学習規律につながったと感じている。また、本校の特色ある教育活動として位置付けたSEL-8Sを年間計画で確実に実施し、道徳科と特別活動、総合学習等を関連づけたカリキュラムマネジメントを整えることで、生徒の人間関係づくりを充実させていく。 |
| | 一般研修 | <p>教職員の指導力向上のための研修を計画的・組織的に取り組む。</p> <p>〈結果〉 自己評価±0P。今年度も外部講師を招聘しての研修会だけでなく、教務部や生徒指導部・生徒支援部・研修部による独自の研修会も持つことができた。</p> | 3.2 | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを預けている立場として、先生方の指導力は気になる。勉強だけでなく、人を育てる能力の向上には時間をかけ、しっかり研修して欲しい。 ・校務分掌の各部が主体となって、稲築東中学校にとって必要な研修が行われていることは、大変素晴らしいことです。 ・昨今の教育現場を取り巻く情勢や状況が厳しくなっていますが、頑張ってくださいと思います。 | 教職員の年齢構成が壺型になっており、次世代を担う人材育成は喫緊の課題である。特に新たなミドルリーダーの育成を図るためにも、同僚性によるOJTを推進する体制づくりを行う。 |
| | 服務 | <p>教職員の服務規律の確保に努める。</p> <p>〈結果〉 自己評価±0P。教育公務員として、日常的に服務規律を意識し行動するよう努めた。情報管理についても、十分に注意している。危機管理マニュアルに基づき、職員の共通理解を図った。</p> | 3.3 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員の事件が多く、服務規律の遵守は公共性がより問われる先生には大きな問題であり、研修はやり過ぎくらいがいいと思う。もし、不祥事が発生したときの社会的信用失墜は計り知れない。研修は、時間をかけて欲しい。 ・今なお教職員の不祥事・不適切な振る舞い等が頻繁に取り沙汰されています。学校への信頼を高めるためにも、実効性のある危機管理マニュアルを作成、見直しを行い、更なる教職員の意識の向上に努めていただきたいと思います。 | 教職員の服務規律・法令遵守に関する研修・管理職からの指導を日常的に行い、不祥事防止に努めた。今後も、危機管理意識を維持するため、危機管理マニュアルをもとにした校内研修会を計画的に実施する。 |
| | 総合所見 | <p>本校の年齢構成が若く、中堅層が少ない職員構成となっている。これまで学校を支えてきたミドルリーダー(中核教員)の異動も避けられない。従って、授業力・生徒指導力をつける校内外の研修や、職場でのOJTによる教師力向上、新たなミドルリーダーの育成が必須である。人材育成のためには、仕事を任せ上での指導体制の充実、参加・参画意識の向上、自発的な研修の奨励を促す必要がある。また、校外での各種研修への受講・参加を校務分掌やライフステージに応じて奨励し、環流学習会等を通して組織的・協働的実践につなげなければならない。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な研修会や外部講師による勉強会等を行い、教員のレベルアップを図ることは、継続することが重要である。その行程を本会に開示して、納得、安心してもらうなど、アピールの方がよい。 ・中堅層が少ない稲築東中学校にとって、若手教員の育成とミドルリーダーの育成は、喫緊の課題です。ミドルリーダー(中堅教員)が異動しても、学校全体の授業力や生徒指導力が低下していくことがないように、管理職を中心として次世代のミドルリーダー(中堅教員)を育ててください。また、校外での研修にも積極的に参加し、還元していきましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・OJTによる研修を計画的に実施する。 ・授業改善、家庭学習や朝活の充実による学力向上を実施、PDCAサイクルを日常的に行う。 |